

# 令和6年度 山口県医師会有床診療所部会第1回役員会

と き 令和6年6月20日(木) 15:00～16:00

ところ 山口県医師会6階 会議室

[報告:山口県医師会有床診療所部会会長 正木 康史]

伊藤真一 県医師会専務理事の司会により開会した。

### 挨拶

**加藤智栄 山口県医師会長** こんにちは。本日はお忙しい中、役員会にご出席いただきありがとうございます。本年度は役員改選の年であるが、本部会の役員の皆様には前回に引き続いてご就任いただきありがとうございます。県医師会の役員改選もあり、会長として私が2期目を務めさせていただくことになるのでよろしく願います。本年3月には日医において有床診療所委員会より「次期医療計画策定等を踏まえ、将来を見据えた有床診療所のあり方について」の諮問に対する答申書が松本吉郎 日医会長に提出されているが、有事の際の有床診療所の重要性等が記載されており、有床診療所は地域医療に欠かせない医療資源であるが、施設数の減少が続いている。中四国では斎藤 徳島県医師会長が全国協議会の会長をされており、また、山口県の正木先生が全国協議会で診療報酬の担当をされており、これからも中四国ブロックの先生方に頑張っていただきたい。本日はいろいろと参考資料も用意されているのでご協議をよろしく願います。

### 議題

最初に部会長の正木が「本日はお忙しい中役員会にご出席いただきありがとうございます。本年度はわれわれの重大な関心事である医療・介護保険、福祉サービスのトリプル改定が実施されたが、今年度からは診療報酬改定が6月からの改定となり、少し勝手が違うこともあったかと思う。そして、今回の改定はマイナス改定も危惧されたが、何とか+0.88%の改定となり、少し安堵できたか考える。今回の診療報酬改定の目玉はベースアップ評価料の新設であるが、事務手続の負担が大きく、申請しない医療機関もかなりあると聞いている。また、申請しても職員の賃金引き上げに見合った診療報酬増収になっているのか危惧されており、これからの検証が重要になってくるか考える。このことに関して後で役員の方々の現状をお聞きしたいと考える。さて、全国有床診療所連絡協議会に関しては、4月からこれまでの任意団体から一般社団法人へと組織変更した。公的機関となって認知度も高まり、今後の発信力の強化が期待されており、この件も後で報告させていただく」と挨拶し、議事に入った。

## 出席者

### 部会

会 長 正木 康史  
副部長 阿部 政則  
理 事 山本 一成  
理 事 吉永 栄一  
理 事 樫田 史郎

### 県医師会

理 事 伊藤 真一  
理 事 岡 紳爾  
理 事 竹中 博昭  
理 事 森 健治  
会 長 加藤 智栄  
副 会 長 沖中 芳彦

## 1. 令和5年度事業報告(案)について

今秋開催予定の部会総会に諮った後に詳しく報告するが、主な事業として、県医師会関係では、年1回の総会(令和5年9月21日)、年2回の役員会(令和5年6月1日、令和5年9月21日)、全国有床診療所連絡協議会の関係では、第36回全国有床診療所連絡協議会総会(福島)、4回の常任理事会、3回の役員会、2回の厚労省訪問・懇談・要望、1回の自民党議連会議、加藤勝信衆議院議員との懇談・要望、などを、全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック会関係では、令和6年1月21日に岡山県医師会館にて役員会・総会を開催した。その他、正木が日医社会保険診療報酬検討委員会に委員として出席し、青森県医師会での講演などを行った。

## 2. 令和6年度事業計画(案)について

事業計画(案)として、総会と2回の役員会の開催、第1回全国有床診療所協議会総会(栃木・宇都宮)、中四国ブロック会総会や全国有床診療所協議会理事会・社員総会・医師連盟役員会などへの参加を予定している。また、正木が自民党議連会議や日医社会保険診療報酬検討委員会などに出席し、必要な情報はいち早く部会員に伝達する。

## 3. 令和6年度総会について

令和6年度総会は令和6年10月24日(木)に県医師会において、15時20分から開催することを決定した。令和5年度事業報告、令和6年度事業計画(案)などについての協議を行う予定である。

## 4. 正木部会長からの報告

### 1) 全国有床診療所連絡協議会の一般社団法人化について

全国有床診療所連絡協議会はこれまで任意団体として活動してきたが、公的機関(一般社団法人)でないために発言力の弱さ、活動範囲の制限等の問題点が指摘されてきていた。例えば、今問題となっている働き方改革による医師の勤務時間の制限等の問題で、特に産科での当直医の確保問題で日医が厚労省との折衝を行う際、法人格である病

院団体や産婦人科学会と一緒に同行できるが、任意団体の全国有床診療所連絡協議会は呼ばれないといったこともあった。そこで一般社団法人化に向けての検討委員会を設置し、定款等を整備して、この3月の全国有床診療所連絡協議会役員会で承認され、本年4月1日より全国有床診療所連絡協議会の一般社団法人化を実現することができた。

### 全国有床診療所連絡協議会(任意団体)

⇒ 一般社団法人・全国有床診療所協議会

一般社団法人化に伴い政治連盟・有床診療所医師連盟(略称:有床診医連)も立ち上げている。

### 2) 有床診療所初期加算問題について

有床診療所初期加算は前回改定(令和4年度)で点数は150点から300点に増点、算定日数も14日から21日まで引き上げられたが、算定要件として「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン等の内容を踏まえ、入院時に治療方針に関する患者やその家族等の意思決定に関する支援を行うこと」が加わった。これを盾に昨年6月ごろから九州地区で「算定対象は人生の最終段階にある場合に限られる」とのことで、かなりの査定事例が表面化してきた。これが全国に波及する事態も危惧されたため、全国有床診療所連絡協議会にて昨年10月より自民党議連会議の開催、厚労省訪問・懇談・要望等を重ね、この3月末にこの初期加算問題についてのQ&Aを通知していただき、問題解消に向かっている旨の報告をした。

### 3) 新たな地域医療構想に向けて

現在、厚労省では新たな地域医療構想に向けての検討が行われており、有床診療所の役割も期待されていることから、全国有床診療所連絡協議会に対してヒアリングがあった。そこで、全国有床診療所連絡協議会の活動状況や取組み内容などを報告するため、①有床診療所の現状、②現行の地域医療構想一評価と課題、③地域医療構想における有床診療所の役割、④病院・介護施設との連携、

⑤ 2040年の医療提供体制のイメージ、⑥新たな地域医療構想への期待、などのデータを取りまとめ、地域密着型の有床診療所の有用性をアピールし、また病院にある「高度急性期、急性期、回復期、慢性期」の病床区分ではなく、いろいろな機能を柔軟に運用できる有床診療所の病床を、病院病床とは異なる「診療所病床」として活用していただきたいとの要望も出している。

#### 4) 令和4・5年度有床診療所委員会最終答申について

令和4・5年度の日医有床診療所委員会の最終答申が3月13日に松本日医会長に手交された。「次期医療計画策定等を踏まえ、将来を見据えた有床診療所のあり方について」の諮問に対して、①現状分析や課題等について(有床診療所の現状、第8次医療計画など)、②将来を見据えた有床診療所のあり方について(医療DXの推進、有床診療所と税制・消費税問題、経営の安定と継承問題、有事における有床診療所の役割など)、③有床診療所の認知度向上の取組みについて(これまでの取組み、今後の取組みなど)、④専門医療について(産科診療所一宿日直許可取得の課題、正常分娩の保険適用化の課題、出生率低下に対してのかわりなど、その他眼科・泌尿器科・整形外科の有床診療所の現状と課題、救急当番への参画など)の取りまとめが行われ報告されている。

#### 5) 第1回一般社団法人全国有床診療所協議会総会(第37回全国有床診療所連絡協議会総会)「栃木大会」について

上記総会が令和6年8月24日(土)・25日(日)に栃木県宇都宮市(宇都宮東武ホテルグランデ)において、「あきらめるな!有床診療所!!」をメインテーマとして開催されるので、多くの会員の参加を促した。

#### 5. その他

今回の診療報酬改定で新設されたベースアップ評価料に関して、役員の方々の申請状況などを報告していただいた。既に申請済み及びこれから申請予定が7割程度あったが、約3割の役員からは「事務手続きの負担が大きい」、「申請してもメリットがない」とのことで、申請しないとの報告があった。申請を躊躇する医療機関が多数あること、申請しても職員の賃金引き上げに見合った診療報酬増にならないのではないかと危惧もあることなど、今後、このベースアップ評価料の検証を求めていく必要があると考える。

## 山口銀行はスマホ1つで

いつでも、どこでも、カンタンに



ダウンロードは  
コチラから





口座開設も

残高照会も

お振込も

お店に行かなくても大丈夫。便利に使えるアプリです。



この世界で。  
この街で。  
このじぶん。

# YMfg

お問合せはヘルプデスクへ

☎ 0120-307-969

■受付時間(平日・土日祝)  
7:00~23:00